

林檎の森

りんごのもり

3
2021
vol.464



特集1 追悼特集 山内齊先生をしのぶ
山内齊氏の人柄に迫る～

特集2
令和3年冬期講座から

山内齊氏の人柄に迫る



山内 齊 氏 (享年79歳)

昭和17年12月26日 生まれ

農業の振興・発展に関して功績ある方に授与されるもので、接ぎ木技術として長年埋もれていた「緑枝長穂接ぎ」を改良し、効果的な品種更新方法として「休眠枝長穂接ぎ」の技術を改良・復活させたことが認められての受章であった。

「高度なりんご剪定技術体系」や「良品多収生産技術」を確立し、県内外のりんご産業の振興に尽力した湯口地区の山内齊氏が、2月14日にご逝去された。

山内氏は当J.Aの剪定会の講師として昭和50年代から平成13年まで長きに渡って務めたほか、摘果講習会や接ぎ木講習などりんご栽培技術の啓発活動を数多く行って頂いた。

平成25年には公益財団法人、大日本農会から、「緑白綬有功章」という農業従事者の方には非常に栄誉ある章を受章した。

また、地域農業発展への貢献として、長年の研究に裏付けされた、作業性が良く良品生産できる剪定技術と、効果的な品種更新が出来る「長穂接ぎ」を普及指導した。また、内弟子の育成や「青森県りんご剪定士養成研修」において多数の後継者を育成するなど県内外のりんご産業の発展にも大きく貢献した。

今回は山内氏の功績を振り返ると共に、今後の将来像について座談会を行った様子をお伝えしたい。



緑白綬有功章を受章した山内氏

座談会参加者

- 溝江 徹 氏 (湯口地区)
- 下山 司 氏 (湯口地区)
- 三上 博幸 氏 (紙漉沢地区)
- 田澤 俊則 氏 (紙漉沢地区)
- 大場 勉 組合長

略 歴

昭和51年～56年

青森県りんご協会湯口支会会長

昭和57年

青森県りんご協会主催立木品評会 第1席 (農林水産大臣賞) 受賞

昭和59年

毎日農業記録賞受賞

昭和60年～平成11年度

「青森県りんご剪定士養成研修」講師

平成元年

青森県りんご協会主催立木品評会 第1席 (農林水産大臣賞) 受賞

平成7年

相馬村文化賞受賞

平成8年

第5回渋川傳次郎賞受賞

平成8年

第7回相馬村郷土産業振興賞受賞

平成17年

全国果樹研究連合会長賞受賞

平成18年

相馬村特別功労賞受賞

平成20年

農林水産省「農業技術の匠」選定

平成22年

青森県りんご剪定士会より感謝状贈呈

平成22年～23年

弘前市「りんご匠の技継承隊」講師

平成25年

大日本農会「緑白綬有功章」受章



山内氏との思いで話に花が咲く参加者ら

大場組合長▼本日はお忙しい中お集まり頂き有難うございます。

今回、山内齊氏が生前、弟子たちとお酒を交えて話をする事が大好きであった事から、このような形式の場を設けさせて頂きました。山内氏と一緒に飲んでいる感覚で、皆さんからの貴重なお話しを頂きたいと思います。



下山 司さん
(湯口地区)

下山氏▼師匠はとにかくお酒を飲みながら話をする事が大好きでした。よく師匠の自宅でお酒を飲み、その後飲食街に行くのがいつものパターンだった。

そのほか、政治や経済、仏教、戦国時代の話をするのが好きで、朝の5時までしたことも度々あった。



山内氏と当時楽しく飲む溝江氏



溝江 徹さん
(湯口地区)

溝江氏▼剪定を学びに師匠の園地に行く、その場では剪定については語らない。呑みの場で理論として語ることが良くあった。

また、歌う事も好きでよく集まると自分で一番先に歌い、その後弟子らが歌うと言いつ流れがいつもできていた。中でも師匠が好きだった歌は、「みちづれ」と「二輪草」と「二人の春」であった。歌を聞くことも好きで弟子にはシラフでも歌わせていた。

三上氏▼師匠は本を読むことが好きだった。そのうち自分も本を読むようになり、本を読むことで色々な情報や知識を身に付くと感じるようになった。

師匠は、本から得た言葉なども弟子たちに教えていた。その中でも私が心に残った言葉は「良き人の出会いは人生の門出」という言葉だ。りんご農家として生きて行く中で様々な人と出会うが、その出会いは自分の人生に大きな影響を与えるはずであると言った意味で言葉をもたらした。この言葉からその日出会った人との飲ミニケーションの大切さに繋がっているんだと思う。



山内氏にも弟子の話聞いて頂いた

山内氏の剪定道

大場組合長▼直近の弟子であるお三方はどつやつて山内氏から剪定技術を学んだのですか？

下山氏▼師匠は私には絶対に言葉では教えなかった。人は教えてもらったことはすぐに忘れる。剪定している後ろ姿を見て覚える事で自分で考え、自分の剪定として習得できるようにして欲しかったんだと思う。



三上 博幸さん
(紙漣沢地区)

三上氏▼師匠は指示を出しながら弟子らに枝を切らせている時に、たまに虎のような厳しい眼差しで見ることがあった。その時には誰でも目をそらしてしまう程の形相だった事は忘れない。また、枝を鋸や鋸で切る際に、切れ味の悪いものは、りんごを取らせてもらった枝に対して失礼だから絶対に切れ味

の悪いものは使わないように教わった。枝を拾う時も、鋸で拾うと枝に傷がついてしまうので、鋸で拾う事は許されなかった。

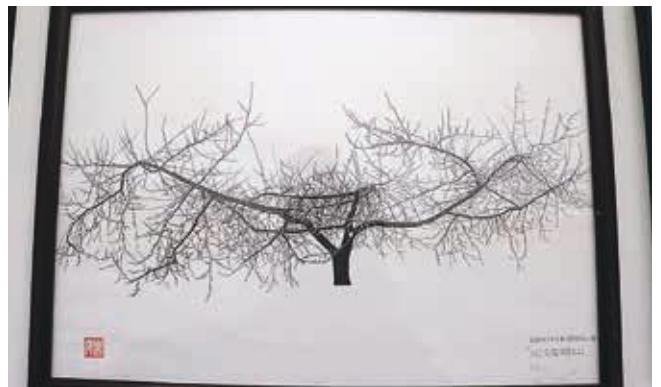
溝江氏▼師匠は、剪定の時には樹に対して感謝の念を持ちながら作業していた。同じことを弟子らに厳しく言う事により、人作りが為されていったんだと思う。剪定はその人の人格を表わし、生活を表わし、人が歩んできたことが現れると私たち弟子に言っていた。

大場組合長▼よく剪定会で、弟子らが樹の雪を下ろし、剪定樹の周囲の足場を固めるなどの準備をしています。一番最初に始めたのは山内氏の弟子らですか？

下山氏▼それは恩師の齊藤昌美氏の孫弟子である師匠が剪定会を見に行った時に学んだものだ。その後我々もやったが、剪定しやすいように準備するというちよつとした気持ちで自分の剪定に表れて来る為、嫌だとは思ったことはなかった。当時は防寒手袋などが無く、軍手で雪をはらった記憶が懐かし



大臣賞受賞の記念に山内氏から頂いた鋸



山内氏が最後に弟子たちに残した理想の樹形の絵

い。また師匠は、自分が行う新春剪定会などの前には、昌美氏に挨拶しに行くほど慕っていた。

溝江氏▼師匠は亡くなる前まで新品種の事を考えていた。とにかく新しく出てきた品種の特徴を見つけたのが早かった。その苦労して見つけた特徴はすぐに弟子たちに教えていた。今でもその凄さは忘れない。

溝江氏▼それにしても昭和57年の大臣賞を取った時の師匠のりんごは良いりんごだった。主枝結果枝の下がり枝に32玉、28玉の揃ったりんごが成った、いわゆる「一枝り



当時大臣賞を受賞した山内氏の樹



左の写真の樹に成ったりんご

んご」のあの樹は忘れない。よく見る下がり枝は詰めた剪定をして下げていくことはよくあるが、師匠は自然と下がった枝に良いりんごを成らせていた。このりんごを成らせる樹形はよく樹の生理を理解した人でなければ出来ない。

J Aを大きく飛躍させた山内氏

大場組合長▼当時販売担当をしていた田澤氏はどんな思い出がありますか？



田澤 俊則 さん
(紙漉沢地区)

田澤氏▼当時私は、販売課長であり、ある時山内氏にシナノスイートの収穫期を高値販売の為に10月20日頃を10日早めることは出来ないか？と話したのが最初である。それから山内氏の園地に出向いては販売品種の話や販売戦略などについて話していた。その度に1時

間を超える会話はいつもの事であった。

山内氏が剪定会終了後、本所大會議室にて生産者に向けて黒板とりんごの枝を使って行った剪定講



中国のりんご研究所にも訪れりんごについて学んだ



今でも相馬の入口を飾る大臣賞受賞の看板

座は大好評であり、サンふじの見本樹を剪定して頂いたこともあった。これらの取組により、現在に至る飛馬ブランドの確立に大きく影響したと言っても過言ではない。

溝江氏▼ 師匠率いる湯口支会が初めて立木品評会にて農林水産大臣賞を受賞したことにより、他の五所支会や紙漉沢支会も負けじと受賞を目指して取組んでいた。他支会も賞を受賞したことで、相馬のりんごが他地域においても有名になった。

田澤氏▼ 同時にJAの共販率アップにも繋がり、木村甚彌賞を受賞することが出来た。それも山内氏による地域のりんご産業を発展させたおかげである。

溝江氏▼ 下山さんが渋川傳次郎賞を受賞したときには、師匠はとても喜んでいました。

師匠は「賞は取りに行くものではなく、自然ととれるものだ。」と話していた。それは師匠の恩師である齊藤昌美氏からの教えである。



下山さんの受賞を記念して山内氏から贈られた「だるま大志」

田沢氏▼ あと平成17年に起きた豪雪による樹体被害で、減収となった時に、管内の生産者を救ったのも山内氏だ。

下山氏▼ 早期収穫が可能となる「長穂接ぎ」は、齊藤昌美氏が、高接病対策で縁枝接ぎを行っている様子からヒントを得て取得したものだ。

下山氏▼ 師匠から直接聞いた長穂接ぎのポイントとしては「ナイフは切れるものを使え」という事。

切れないナイフで切ると上手く切れずに何度も切ることになる。そうなることによってぼこぼこした面になり活着不良に繋がる。

それと南側に接いだものは水の吸い上げが遅く、活着も遅くなる。だから接ぐ枝の先を少し切り落として水の吸い上げを促し、活着を促進する。接いだものはテープを惜しまずにがっちり固定し、動かないようにする。テープで固定している事は園地に手伝いに来てくれる人みんなに報告しないと、動かされることもあるから気を付けないとだめだと教えてもらった。ポイントはこうして教えてもらったけども、やり方はやはり見て覚えるスタイルだった。

師匠が長野に行った時にシナノゴールドとシナノスイートが良いりんごだと目を付け、自家増殖をするためにも長穂接ぎを行っていた。でも収量と単価が気に入らずにいつの間にかやめていた。(笑)

山内一派の伝統

大場組合長▼ 当管内で最近若い就農者が増えている。新規就農者に



長穂接ぎを行った樹の様子



平成17・18年と管内最大積雪量237cmという大雪により、樹の主枝の裂開や枝折れ、主枝までの積雪によりネズミやウサギの被害のため減収となり、2年間で30%の被害まで達した。管内の生産者の中には諦めていた人もいたと言った。

そんな危機的状況を乗り切るために早期収穫が可能となる「長穂接ぎ」が2006年6月の広報誌で特集として組まれたほか、現地での実演会も行われ、園地の早期回復が進められた。

も山内氏の伝統は伝えて行きたいですか？

溝江氏▼確かに見る限り最近若い就農者が増えている。その人たちが誰に教えてもらうのかによって伝統は違う。もし私たちの元で学ぶのであればまずはやはり飲ミニケーション。それから技術的な事を見せていく。師匠によると剪定技術には向き不向きがあるという。それは技術に関して研究していく探求心があるのかどうかという事である。1つの事を追っていくと言っるのは、理想のりんごを作る為には必要な要素だと聞いた。

下山氏▼私は師匠の技術を本に残したいと言った事があった。でも本人には「必要ない」とキツパリ断られた。書き物に残すことで型にはまってしまい、それ以上の技術が生まれてこないものと言われた。

私も、若者には基本を伝えながらもそれぞれの技術が身につくよう、ヒントを出せるようにしていきたい。

大場組合長▼山内氏が逝去された今、これから山内一派の今後の姿について教えてください。

下山氏▼周りからは消滅するのではないかという声も聞こえている。今ではかなりの人数が師匠の弟子としていますが、これからの事は二代目の意向に従います。

溝江氏▼師匠の弟子は県内外全部で何人いるかは把握できない程いる。県内だけでも100人は優に超える。

下山氏▼師匠は生前から、これほどまで大きくなった山内一派で絶対に反発する者が出てくると察し、既に後継者として二代目を作っていた。さすが師匠だと今になって感じた。

三上氏▼師匠の弟子に着いた当時は「飯は食える様にしてやる」と教えてもらった。その言葉を聞いてから、必死に師匠について行く決心をした。私自身も弟子らにこのような意思を繋げていきたいと今となって感じている。

現在これほどまで大きくなった繋がりを衰退させない様にみんなと共に協力していきたい。

溝江氏▼今回3人で師匠を語ったが、相馬地区には沢山の弟子や孫弟子、ひ孫弟子までいます。これからは代々が一丸となって山内一派の伝統を守るために活動していきたいと思います。

大場組合長▼今日は貴重なお話しを聞かせていただきありがとうございます。これからも皆様のご活躍を願うと共に、当JAにも変わらぬ協力頂ければと思います。今日は大変ありがとうございました。



原田式!! 苗木の植え方



① 苗木を植える前に48時間浸漬し、樹に水分を与え、水中ポンプで水が汚れない様循環させる。
(苗木を植えてからすぐに水を吸い上げることが出来ない為、あらかじめ48時間程度の水を与える)



② 植える前に消毒をする。
(オーソサイドやトップジンM等で)



③ 根きりを行う。
(根を切ることで後に根の広がりが良く、成長を促す。同時に細かい根も出やすくなる。)



④ 植えると同時に土が泥状になるまで水を散布する。



⑤ HTS、丸葉台は接ぎ木部が見えるように植える。



ワイ台は地上から20cm程度接木部が見えるように植える

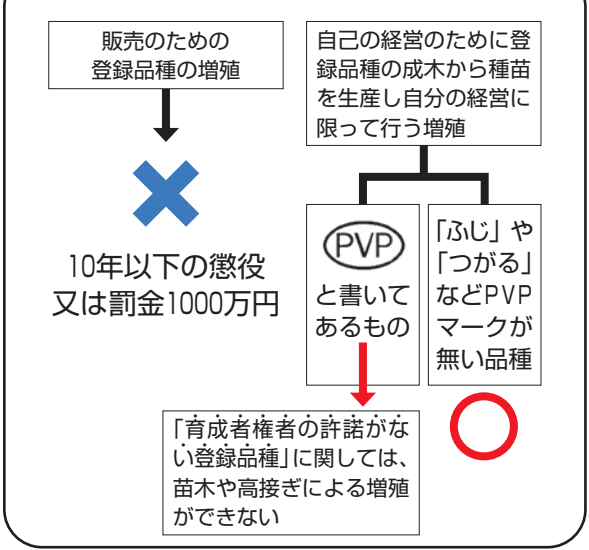


プラスαメモ

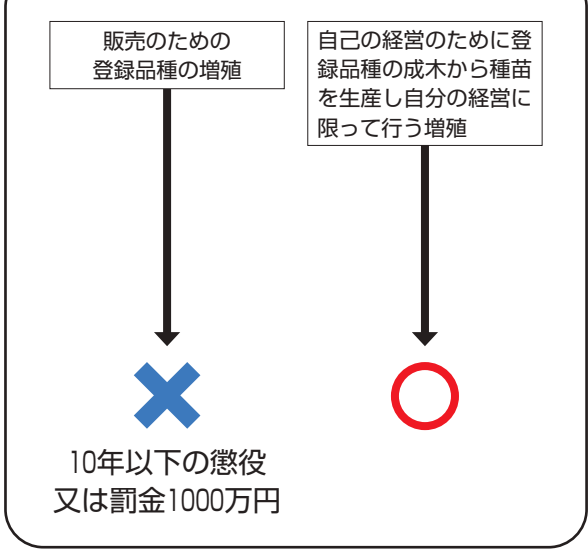
冬の凍害対策としてクラフト巻きや白塗材で対応。

4月1日からの種苗法改正について

令和4年4月1日からの種苗法



現在の種苗法



(株)原田種苗のカタログの1ページ

PVP

PVPは、Plant Variety Protection (植物品種保護) の略となり、このマークが「登録品種」という文字列の記載と同じ意味の表示となる

※商標登録のマークもあるのでご注意を！

ホームページや苗木のカタログの品種の名前の横に書かれている®というマークは「商標登録」という。表彰登録をしたものは他人がその名称を使用できなくなるというものであり、商標権が発生する。

冬期講座では(株)原田種苗の原田寿晴代表取締役はじめ3人がこれらの事を説明して下さいました。

種苗法改正を中心に注目された内容であったことから生産者らは注意しながら聞き入っていた。

これからの苗木の購入から苗木の植付け、そして品種の自家増殖について今回の記事をご活用いただけたらと思います。

品種別ランキングと過去のデータとの比較

平成26年度		令和2年度	
1位	宮美ふじ	1位	宮美ふじ
2位	ひらかつがる	2位	トキ
3位	シナノスイート	3位	シナノゴールド
4位	トキ	4位	紅虎
5位	くんま名月	5位	ひらかつがる
6位	ほのか	6位	くんま名月
7位	こまちふじ	7位	王林
8位	シナノゴールド	8位	きおう
9位	王林	9位	シナノスイート
10位	恋空	10位	千雪

果実販売動向

販売課 田中瑠偉



2月の果実動向は、数量増の、品目により二極化現象となりました。

イチゴについては、安定した入荷が続きましたが、バレンタイン需要や値ごろ価格から売場が拡大され、引き合いの強い状況となりました。ミカンについても量販店を中心に引合いは強く堅調な販売が続きました。

反面、リンゴについては、春節向けが落ち着いたところから国内へシフトされ、潤沢な入荷が続く中、流通量の少ない上位等級品については堅調な販売となりましたが、輸出に向かない格外品、ツルワレ、葉とらす等の下位等級品については厳しい販売となりました。

また、消費宣伝の実施が限定的であることや、特売企画等の少なさにより、末端での消費が鈍化傾向であることから、荷動きは停滞し、価格についても下げ基調での推移となりました。サンふじの産地在庫が前年対比150%を超えていることから、供給過剰となり

流通在庫も膨らんでいます。

当JAでは、全国での消費宣伝が実施できない状況であることから、各取引量販店で宣伝資材やチラシにより特売の企画を徹底して取り組んだことにより、色薄以外の等級については順調な販売となっています。

今後、競合するイチゴについては総体量が減少傾向となりますが、ひな祭り需要から売場は広く維持されており、量販店の集客商材として堅調な販売が続く見込みです。ミカン・その他柑橘類については、入荷量の減少に伴い売り場は縮小傾向にありますが、安定した引き合いが予想されます。西南暖地のスイカ・メロンについては、生育が

平年よりも一週間ほど前進出荷の見通し

です。

このような販売環境の中で、リンゴについては、今後も潤沢な在庫が続く見込みの中、競合果実に比べ販売計画が組みやすいことから売り場は確保される見通しですが、消費地の気温上昇により内部褐変が散見され始めていることから、普通冷蔵品については特に品質管理の徹底と積極的な出荷対応が必要です。

また、イチゴや輸入果実も売場拡大が予想されることから、リンゴの企画販売に積極的に取り組みます。



大学生アルバイトが活躍中

単価は全農あおもりデータ（2/28累計）、在庫数量は県りんご果樹課作成（1月末）

品 種	サンふじ	ふ じ	王 林	ジョナ	その他	合 計
単 価 (円)	2,727	4,634	2,804	2,686	2,741	2,714
前 年 比 (%)	86	96	94	86	93	91
在 庫 数 量 (ト)	95,497	27,779	13,763	17,386	9,269	163,694
前 年 比 (%)	150	104	109	137	141	134

自動車税（種別割）についてのお知らせ

●自動車税（種別割）の住所変更届について

自動車税（種別割）の納税通知書は、原則として自動車検査証（車検証）に記載された住所にお送りしています。

転居等で住所が変わった場合は、運輸支局で住所の変更登録手続きをしなければなりません。事情によりすぐに住所の変更登録ができない場合は、中南地域県民局県税部へご連絡ください。

また、県ホームページからも届出することができます。

<https://www.pref.aomori.lg.jp/life/tax/top.html>

ページ上段「自動車税種別割住所変更届」をご覧ください。

●自動車税（種別割）の口座振替について（6月納期分）

自動車税（種別割）の納付は、便利で安全・確実な口座振替をご利用ください。

来年度（令和3年度）の口座振替の申込期限は令和3年4月30日です。

申込用紙は、各取扱金融機関・中南地域県民局県税部の窓口に備え付けてありますので、お気軽にお問い合わせください。

なお、車検の継続検査時、運輸支局において電子的に自動車税（種別割）の納税確認を行い、自動車税（種別割）納税証明書の提示が不要であるため、口座振替済の通知書（兼納税証明書）の送付は行われません。

【問合せ先】中南地域県民局県税部 納税管理課

TEL 0172-32-4341（直通）

金融共済課からのお知らせ

いつも当JAをご利用頂き感謝申し上げます。
今年の年金友の会「相幸会」春の集いは、
新型コロナウイルス感染拡大防止の為、
開催中止となりました。



.....
また来年、会員の皆様に会えることを心から楽しみにしています。

地域おこし協力隊 活動記

Vol.70



司会は、佐野りさ隊員の旦那さんである佐野シンゴさん！盛り上げ上手で、参加者の方々も笑顔に♪



交流タイムの名札は、りんご剪定枝を利用したクリップに。参加者全員と話していただきました。



充実した飲物コーナー🍓 1人30秒で自己紹介！



自分の連絡先をお友達になりたい人へ投函。

雨宿り用テントとモービルに乗る参加者。



役場スタッフと青年部スタッフ合作の雪だるまが見守る。

剪定をする女性ら。花が咲くと聞き枝を持ち帰る方も。

園地と田んぼを貸して下さった、三浦剛さん、山内芳宏さん、本当にありがとうございました！

このイベントは、昨年JA主催の剪定会を見学したことで、青年部の柴田部長へインタビューをしたことがきっかけで企画したものです。

○農業に興味のある独身女性と、相馬の独身りんご青年との交流。

当日は男女合わせて18名の参加があり、室内では自己紹介や交流タイム、園地では剪定体験とスノーモービル体験を行うなど内容盛りだくさん！

交流タイムにはホットアップルジュースや、ふじ・王林・シナノゴールドのジュースの飲み比べや、芽女倶楽部の

あいにくの雨降りでしたが、りんご青年と一緒に枝を切ったり、スノーモービルで声を上げて楽しんでいたりした女性たちの姿が、とても印象的でした。

今後もコロナ対策をしながら、相馬を盛り上げていきたいです☆

こんにちは！ 協力隊の石田です。

2月20日(土)に青年部の協力のもと『りんご青年と遊ぼう！ 雪の相馬で交流会』というイベントを行いました。

○りんご青年の職人仕事の格好良さを旧村外の女性に知ってもらうことで、地区内外の盛り上げを図る。という目的で実施しました。

紅玉のアップルパイのお土産など、りんごに特化した交流会にしたことで、参加者の方々に大変喜んでいただきました！



いきいき女性部通信

農業振興課 女性部 堀井裕子



女性部では2月2日、相馬中央公民館にて七宝焼講習と料理教室を行いました。

女性部冬期講習として七宝焼講習会を行い、部員10名が参加しました。講師にはカルチャーセンターなどで指導している藤田久美子さんを迎え、ペンダントやブローチ、指輪など色々な作品に挑戦しました。

最初にブローチの形をした銅板を、クレンザーが付いた歯ブラシで磨き、銅板裏側にゆう薬（主に二酸化ケイ酸素を含む）という薬を塗り加工します。

その後、電気炉の上で乾かし銅板の表面に色付きのゆう薬で色付けします。色付いたら800度前後の電気炉で焼きます。次第に窯の中でゆう薬が溶けだすことで、ガラスのようになり光沢が出てき



色鮮やかで光沢のあるペンダントの完成



ペンダントの作り方を相談する部員ら

たら完成となります。

同じものを作っても、作り手1人1人の個性が出て、焼く前の色と焼き上げた後の色合いの変化に参加者は楽しんでいました。

その後、コロナ感染症対策として部員数を絞り、5名で伝統料理、地元の農産物を使った料理教室を行いました。沢田地区で収穫したフキを塩漬けた物を使用し、豚肉と甘辛炒めを作りました。

また、りんご産地である相馬のりんごを使い、ゴマ酢和えと、バスクチーズケーキにも挑戦しました。参加した部員らは、「地物をつかってこんなにもアイデア料理が作れる事を知ってすごく勉強になった。今回参加できなかった部員らとも共有していきたい。」と話し、有意義な時間を過ごしていました。

今回のような料理教室を地域の部員以外の方々も参加できるように、今後企画していきたいと大黒谷ヨリ子部長は意気込んでいました。



リピートしたくなるような簡単料理の完成



レシピを確認しながら部員で協力プレー

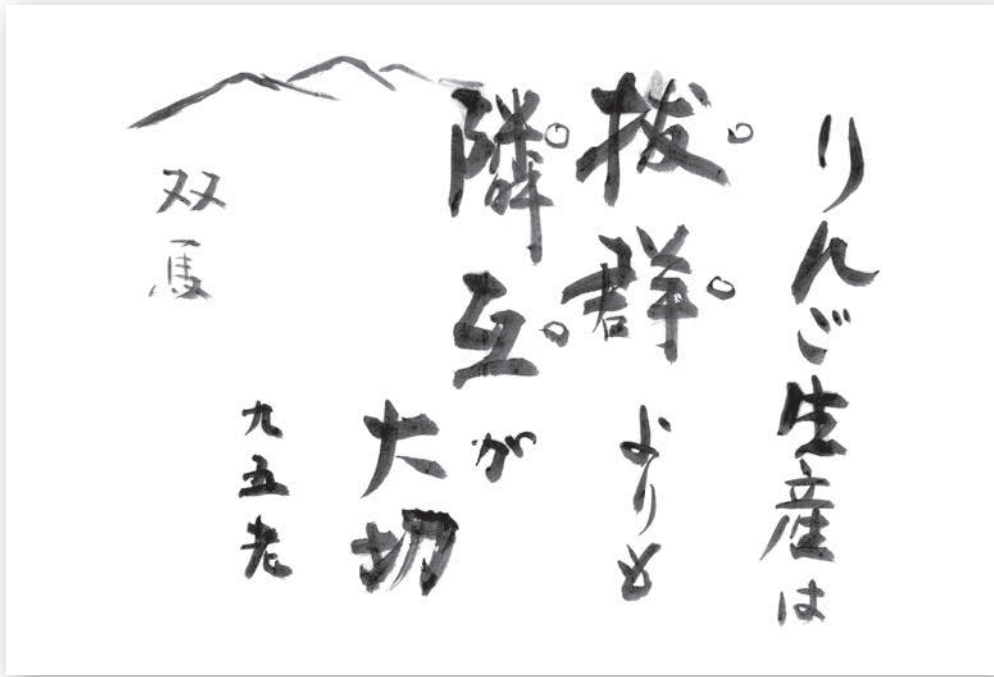
農協役員室で——ネズミ盗聴記

元農協学園長
秋田 義信



農協の役員室。オンベ、油・売りなどが今日も畠から逃げてきて雑談を交わしている。オンベが弘前

の図書館でコピーをとってきたというものを読みあげている。農地改革前の津軽の大地主のことだ。



オンベが「金木町と五所川原までの鉄道は、主に津島家が大株主になって通したものだそう。小作米を運ぶために」とか「田沢吉郎氏の妻君は津島文治の長女だ」とか「米内山義一郎氏（上北町、社会党衆院議員）が青森中学時代、太宰と同期だったぞうだが、太宰が着ている服も靴も、他の生徒と全然違っていたぞうだ。」など。

「農地改革」（昭和二十二年～二十四年）前の津軽の大地主

（小作人が地主へ納める「小作米」は四割。南部地方は五割だったとのこと）

氏名	住所	水田反別 (町歩)	小作人数 (人)	氏名	住所	水田反別 (町歩)	小作人数 (人)
高杉金作	高杉村	六五	一〇五	安田コ造	板柳	九二	一一三
松本純一郎	千年村	五八	一一〇	安田才助	板柳	二〇一	二八〇
高谷貞助	船沢	七二	一四〇	青山浅次郎	板柳	五五	九八
笹森栄	和徳	八〇	一五〇	宮越正治	内湯	一〇五	二二三
佐藤源蔵	田舎館	二二	二五〇	原田藤次郎	森田	二二二	三〇〇
田沢信	田舎館	八三	一五〇	原田豊次	森田	一〇二	一五〇
長谷川信太郎	五郷	七三	一六二	佐藤日郎	森田	五七	五〇
長谷川宗一	五郷	六三	一五三	石田ミツ子	柴田	六五	六〇
加藤宇兵衛	黒石	二四三	二五〇	渋谷文男	水元	一四二	一六〇
鳴海文四郎	黒石	八五	一四五	長谷川一郎	舘岡	一九八	二〇三
鳴海浜代	浅瀬石	九〇	一〇七	鳴海周次郎	車力	一七八	二〇〇
対馬瑠太郎	中郷	二三〇	二二〇	高谷豊之助	木造	二三七	一八〇
宇野清左衛門	大郷	一五七	二七五	市田忠八	木造	六〇	五〇
西谷寿徳	尾上	六二	一五八	小倉常吉	十三	八四	六五
阿部誠一郎	七和	一〇四	九八				
楠美芳幹	七和	五二	五一				
古川市三郎	中里	一八六	一四一				
井沼覚五郎	中里	七二	九三				
大川忍之助	中里	七六	一〇四				
斉藤純吉	中里	一一二	一四七				
津島文治	金木	二一八	二九〇				
高橋弥左衛門	金木	七九	一二四				
佐々木嘉太郎	五所川原	六〇九	八九四				
平山又三郎	五所川原	二三五	四六八				
竹浪繁造	板柳	九四	一五〇				

（注・大正十二年現在。山本省一著「青森県農地改革史」による。「農地改革」はマッカーサー司令部の命令）

金木町の津島家——「斜陽館」は明治四十年建築。工費、一万円説と四万円説あり。棟領は弘前の堀江佐吉。当時、日雇賃金三十五銭。太宰治が東大在学中、青森市の小山初代が追いかけて行って同棲。そのとき兄、文治が送金した金額は毎月百二十円とか。当時、小学校長の月給が六十五円。津島家へ入る小作米は毎年、七千俵くらいだったぞうだ。

編集部をつぶやき～編集後記～

いつも広報誌「林檎の森」のご講読ありがとうございます。
 今回山内齊さんの追悼特集として書かせてもらい、山内齊さんというとても偉大な人が旅立ったんだと感じました。ひと言では言い表せない程の厳しくも弟子一人一人を理解し、愛情を持った大匠匠であることを感じました。酒を交えた飲みにケーション能力が凄く、私自身とても見習いたい部分が沢山ありました。これから山内さんの遺志の継承は二代目や、兄弟子らがもちろん守り続けると思いますが、JAとしても力添えしたいと思っています。
 By tomoshi

理事会だより

2月19日(金)

- 1) 上半期監事監査講評について
- 2) 1月末残高試算表について
- 3) 組合員の脱退について
- 4) 組合員名義変更について
- 5) 共済担保貸付の利率変更について
- 6) 貯金規定の一部改正について
- 7) JAバンクローン融資約款の一部改正について
- 8) 貸付関係について
- 9) りんご販売関係について
- 10) 固定資産の取得について
- 11) ライスセンター建設計画について

- 2 お稲荷さんのお使いです
 5 小さな子どもに読み聞かせることも
 7 一を聞いて一を知る
 9 ひいて木を切ります
 11 赤、白、八丁といえば
 12 授業が始まる前に鳴ります
 14 4月1日のエイプリルフールにはついてもい
 16 金太郎は長じて坂田——となりました
 18 につこりするとへこみます
 20 精製してガソリンを作ります
 21 日光市の景勝地の一つ、——の滝

- 1 東京の桜の名所。西郷隆盛像があります
 2 ランチュウやコメントはこの一種
 3 ドライバーで締めたり外したり
 4 威力があつて速い球のこと
 6 ムジユンのムが表す物
 8 矢をつがえます
 10 スマホの検索——を削除した
 13 うずら豆は、——豆の品種の一つです
 15 靴を数えるときに使う言葉
 17 1000kgは1——です
 19 漢字で書くと木瓜。美しい花が咲く植物です

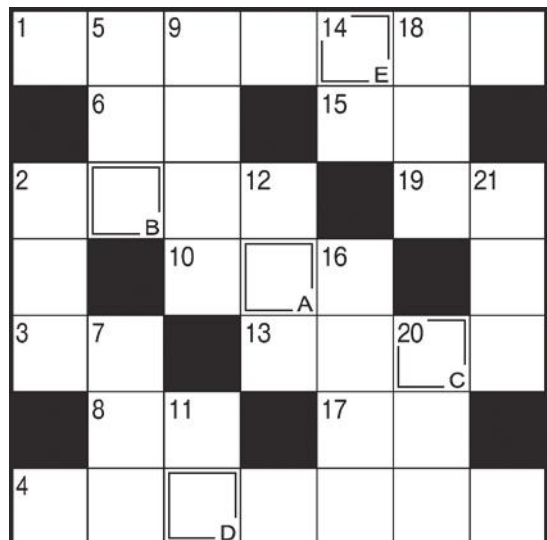
【タテのカギ】

Q 二重マスの文字をA～Eの順
 に並べてできる言葉は何でしょ
 うか?

出題 ニッコ

パズル? 頭の体操

【ヨコのカギ】



答えは広報「林檎の森4月号」にて掲載いたします。

2月号の答え A:シ B:ユ C:ン D:ミ E:ン

表紙物語

今月の表紙は、2月20日に行われた相馬地区地域おこし協力隊主催の農業者交流会で飾られたメニューメントであり、黄色が男性、赤色が女性をイメージして良い出会いがあるように願いを込めて作られた。このイベントには相馬管内の男性9人と、県内の女性9人が参加した。

始めに、弘前市役所相馬庁舎にて、参加者とのトークタイムで緊張を和らげた。次に、普段体験することの出来ない田んぼでのスノーモービル体験や、剪定作業体験が行われた。参加した女性は剪定体験を終え「こんなに小さい芽がリンゴになるのはビックリした。また、樹の栄養をコントロールするためには剪定を行っんだと分かった。」など感想を述べ、リンゴ栽培に理解を深めていた。

あいにくの雨模様であったが、予想以上の盛り上がりに関係者らは次回の開催に手応えを感じているようだった。



相馬のリンゴジュースを飲みながらトークタイム



女性参加者全員と自己紹介



参加者の距離をグッと縮めたモービル体験



鋏で簡単に切れることに驚く女性参加者

JA相馬村広報

林檎の森 りんごのもり

2021.3 Vol.464

■ 発行者
相馬村農業協同組合
〒036-1593 青森県弘前市大字五所字野沢23-1
TEL.0172-84-3215 FAX.0172-84-3497

■ 編集
総務課広報
ホームページURL <http://www.ja-souma.or.jp/>
e-mail:soumuka@ja-souma.or.jp

■ 発行日
2021年3月15日

JA 相馬村概況

〈令和3年2月末日現在〉

組合員数	865人
（うち准組合員数	371人）
出資金	620,880千円
貯金額	9,994,843千円
共済保有高	3,248,808万円